

3. 各種委員会報告

収書委員会

収書委員会は、図書館の収書方針の審議、収書計画の策定、蔵書評価など、収書に関する政策決定を行う委員会である。2002年度は2回開催した。

11月12日開催の第1回委員会では、図書館の特色ある蔵書を構成する「地方史」の収集に関する図書館の方針について、有価証券報告書マイクロフィッシュ版の刊行中止に伴うオンラインデータベース版有価証券報告書導入について等の報告がなされた。また、洋雑誌高騰等を原因とする2002年度図書予算不足について、予算費目間の振替えを検討し、承認した。さらに逐次刊行物補充費の次年度以降の拡大を承認した。

3月6日開催の第2回委員会では、2002年度図書館図書費執行残分の処理について、2003年度特別資料募集について、等の報告がなされた。また、選書・収書に関わる図書館内各種委員会の運営内規（案）について審議し、承認した。さらに、前回委員会で承認された逐次刊行物補充費の運用方法、デジタル資料の選定方法について審議し、承認した。

新聞雑誌委員会

新聞・雑誌委員会は新聞・雑誌の収書について検討する委員会で、2002年度は2回開催した。

7月17日開催の第1回委員会では、収書に関する基本方針を確認し、逐次刊行物費の値上がりの仕組みについても委員の共通理解を得た。次いで年度予算を確認した上で、新規購入雑誌申込に関する審議を行った。新学科新設等により申込価格が予算額を大幅に上回ったため、電子ジャーナル利用のできる雑誌は可能な限りそれを利用するよう教員の理解を求めた。また、2001年度末、各タイトルの必要性を尋ねるために教員を対象にアンケートを実施したが、この結果をもとに、購入中雑誌の継続の見直しについて検討した。雑誌価格高騰への対処として継続購入の見直しは必須であり、必要性をあげた教員が0名のタイトルについては、図書委員を通じて再度確認のうえ購入を中止することを了承した。

3月12日開催の第2回委員会では、これまで明文化されていなかった新聞・雑誌委員会運営内規について検討し、これを了承した。電子ジャーナルの選定についても本委員会で検討することとなる。また2003年度の逐次刊行物予算、2004年新規雑誌購入公募スケジュール、バックナンバー購入方法について審議した。新規購入雑誌については、電子ジャーナル利用できるものは対象外とすること、バックナンバーについては予算増額など次年度の方針を決定した。

全体として、雑誌価格の高騰による予算の逼迫への対処が迫られており、今後とも本委員会の大きな課題となろう。

特別資料選定委員会

特別資料選定委員会は、複数の学問分野にまたがる基本的な学術資料、学内の学際的な研究グループが必要とする学術資料、学内のユニークな研究プロジェクトが必要とする学術資料、貴重な大型コレクションの4つの収集基本方針をふまえて、大型(高額)な特色ある資料を選定する委員会である。

図書館長のもとに図書委員、図書館員あわせて7名で構成される。

2002年度は6月6日に第一次選定を、12月10日に第二次選定を行った。

第一次選定では15件の応募から「和田清博士旧蔵漢籍コレクション」、「リコルド『1812-1813年の日本航海記』初版」、「ストレーツ・タイムズ1982-1989」の3件を選定した。

第二次選定では第一次選定で不採用となった分と追加応募あわせて20件から、「ガルニエ『インドシナ踏査記』1873年初版」、「ウィトルウィウス・ブリタニクス1715-1771年初版」、「抱谷文庫旧蔵台詞類」の5件を選定した。

アフリカ文庫選定委員会

アフリカ文庫は1979年の開設以来(当初はアラブ・アフリカ文庫)、本学の特色あるコレクションの一つとして、毎年、選定委員会により重点項目が決定され、選書・収集が行われている。選定委員会は図書館長のもとに5名の教員および図書館員により構成される。

2002年度は6月13日に第1回、11月22日に第2回の委員会を開催した。

第1回では2002年度の選書方針を決定した。アフリカ文庫収集方針の原点を確認し、収集範囲は従来どおりアフリカ大陸54カ国を基本とすることとした。あわせてアフリカ文庫の宣伝になるような講演会、音楽会などのイベント開催の可能性についても協議した。

第2回では、「アフリカの官公庁刊行物(マイクロフィルム)を網羅的に収集する」という選定方針を実現するためには現在の予算では不可能なため、予算の増額を要求することにした。また、2001年度までアフリカ文庫が私立大学等経常補助金特別補助の対象になっていた経緯もあり、研究成果を具体的な形とする冊子体目録の発行についても検討した。

学習用図書選書委員会

学習用図書選書委員会は、駿河台、和泉、生田の三地区の学習用図書及び寄贈図書の選書について協議・調整する機関として設置されたもので、必要に応じて委員会を開催する。

各館における学習用図書の選書体制は次のとおりである。

中央図書館は、駿河台地区の各課より選出された委員からなる中央図書館選書委員会(委員長は総合サービス課長)を、隔週の金曜日に定例開催し、現物見計いや寄贈図書の選定のほか、全国書誌と東販の新刊情報、図書新聞等によるカタログ選書、シラバス

図書の扱い等、選書に係わる諸課題を検討している。

和泉図書館では担当者が主にカタログ選書を行っているほか、課員全員による現物見計いも行っている。

生田図書館では現物見計いと指示見計いを担当者を置いて行っている。

また、99年度より教員による学習用図書選書委員会が発足した。3地区とも図書委員を中心に選書が行われ、「学習用推薦図書」の申込件数は確実に増加している。

学習用基礎資料選定委員会

学習用基礎資料選定委員会は、図書館として備えて置くべき基本的な資料のうち、特に大型(高額)の資料や、図書館の個性形成に資する特別な資料を計画的に収集するために、設置された委員会で、図書館員5名より構成される。個性形成に資する資料については、次のものが予算化されている。

- ①明大文庫(中央)、②近代文学文庫(和泉)、③地方史(中央)、④蘆田古地図(中央)、
⑤女性問題資料、⑥江戸文藝文庫(中央)

2002年度は7月16日に第1回、12月5日に第2回、2003年3月10日に第3回の委員会を開催した。各回における購入決定資料は以下の通りである。

第1回選定：「伏見版孔子家語6巻」、「ポリマー材料百科事典」など5点。

第2回選定：「百鬼夜行絵巻」、「ダンテ『神曲』1502年初版」など4点。

第3回選定：「昭和の読売新聞戦前Ⅱ」、「ホップス『リヴァイアサン』1651年初版」など8件。

図書館紀要編集委員会

「図書の譜—明治大学図書館紀要—」は、1996年より刊行を継続しており、職員の自己研鑽や資質の向上を図るための研究成果公表の場となっている。2002年度は第7号を2002年3月25日に刊行した。

第7号は182頁、内容は以下のとおりである。

1. 図書館における利用者の活性化に関する研究 / 山下洋史
2. 図書館リテラシー教育と学生の「図書館活用法」の実践から / 大野友和
3. 和泉図書館の課題と展望：雑誌担当者の目を通して / 柴尾晋
4. 自然科学系資料のはなし：生田図書館を題材として / 伊藤光郎
5. 中央図書館ギャラリーでの展示活動報告 / 平田さくら
6. スロウファイア：明治大学中央図書館ミニ調査 / 鈴木由美
7. ある図書館人の精神史 / 坂口雅樹
8. 第5回・図書館講演会「著者と語る」：「ウルトラマンから寅さんまで、監督・脚本家・作家の執筆現場」、神楽坂ホン書き旅館「和可菜」の50年 / 黒川鍾信
9. 本棚の隅の「愛蔵書」：至芸を楽しむ『子ども寄席 古典落語』 / 畑野繭子
10. 『山口茂吉日記』 / 玉井崇夫
11. 愛日文庫所蔵「魯齊亞國全圖」略述：長久保赤水述「魯齊亜之圖」との関わりにお

いて / 岩井憲幸

12. オンラインサービスの開発と運用 / 中林雅士
13. 図書請求記号自動付番システムの開発 / 丸山郁太郎
14. 『リンディスファーン福音書』 / 白井直美
15. 「江戸文藝文庫」蔵書解題（二） / 内村和至

広報委員会

2002年度「図書館報」と図書館だより「らいぶ」とが合併し「らいぶ（図書館報）」となった。広報委員会では、「図書館利用案内」、「図書館ホームページ」および新たに刊行した「らいぶ（図書館報）」についてそれぞれ各編集委員会を構成し、編集責任者のもと企画検討を行い、上記刊行物の発行、ホームページの公開を行っている。

「らいぶ（図書館報）」は、広報誌として、図書館からの情報をタイムリーに伝えるべく誌面を新たに構成し、連載記事「図書館活用法」、「図書館特別資料の紹介」を中心に、その時々情報を盛り込みながら発行した。

「図書館利用案内」関連では、2002年度に改訂があった「図書館利用規程」について、相互利用や山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム、電子図書館機能等を盛り込み、「案内」本体を企画した。また従来分離していたCD-ROM 関連案内を包含した「文献のさがし方」、さらに2002年度から新たに開始した「ポータルサービス」を含め、OPAC 検索マニュアルや横断検索機能を盛り込んだ「OPAC ユーザーズガイド」をそれぞれ企画し、「案内」別冊として2003年度初めに発行した。

図書館ホームページ関連では、ホームページのリニューアルを検討した。サイト構成の検討、ページデザイン案の作成などを行った。次年度引き続き、リニューアルに向けて作業を進める予定である。

個人情報の保護に関する監査委員会

「図書館における個人情報の保護に関する要綱」（1995年度例規第8号）第10条第2項に基づき、監査委員による監査を毎年実施している。

2002年度においては、3月11日、和泉図書課を対象に監査を実施した。その結果、和泉図書課が保有する個人情報について、概ね適正な管理・運用がなされていることを確認した。

また監査委員からの指摘事項として、個人情報保護に関する全職員を対象とした教育体制を築くことの必要性、問題が生じた場合の全館的検討体制が求められることが挙げられた。

図書館自己点検・評価委員会

図書館自己点検評価委員会は、教学自己点検・評価委員会からの依頼に基づき、図書館に関する教学自己点検・評価を実施する委員会である。

12月10日、担当者による打合せを行い、報告書作成に関する執筆分担、今後のスケ

ジュールを確認した。報告書は図書館の課題・問題点を継続的に点検・評価すべきものであるため、例年どおり前年度報告書にあげられた課題の進捗状況のチェックから作業を始めることとなった。

2003年1月に報告書原案の検討を行った後、3月、最終報告書を教学自己点検・評価委員会に2003年3月に提出した。

サービス推進委員会

サービス推進委員会は、図書館サービス充実のため、各種図書館活動について検討する委員会である。2002年度は10月30日に委員会を開催した。

今年度、図書館サービス拡充の一環として、図書館ポータルシステムの10月1日からの稼動について、図書館デジタル情報源案内ホームページ開設について、和泉図書館における近代文学文庫著作展の開催について、生田図書館における閉架書庫の開架化のための書庫整備作業の終了について、等の報告がなされた。

また、「図書館利用規程」改訂案について検討し、承認した。今回の改定は、貸出冊数・期間の拡大を実現し、さらに新たな図書館サービスであるデジタル情報・情報機器提供に関する事項を明文化するとともに、既に実施している開館時間・開館日の延長を明文化するものである。

